

# あぐりすと

このコーナーでは、地域の農を担う、情熱ある農業者をご紹介します。

若柘地区で稲作を中心に活動している山の農場「百姓や」生産組合。

平成22年に発足した生産組合で、約15haの農地を管理しています。組合員は若柘地区の農家を中心に13戸。設立のきっかけは平成16年の中越地震。秋の農作業が終わり農機具を整備し格納したところに地震が発生、農機具小屋が倒壊しそれとともに、農機具等が壊れたことから、同地区の農家12戸が集まり復興基金を活用し農機具等を共有するため誕生した組合です。

代表を務める内山博文組長は若柘地区の現状を「農業者の高齢化が進み、夫婦二人だけで作付けをしている方が多い」と語ります。夫婦どちらかが作業できな

## 地域農業の受け皿へ



▲稲刈り作業を行う内山さん

くなれば、離農しなければならぬ農家が多数となっています。そのような状況になった際、田畑をどうするか困ってしまうことが、どこの地域でもあります。個人で稲作を請け負っている方もいますが、山間地の田んぼは畔の法面が広く平坦地の田んぼに比べて草刈をしなければならぬ面積が広いことや、大きい農業機械を入れることが難しいなど限界があります。その中で「安心して任せられる受け皿になれるよう今後活動していきたい」と話しました。

今年法人化するための

協議を進めており、法人化すれば以前と比べて活動の範囲を広げることが出来ます。今まで組合員各戸の名前で米を出荷していましたが、法人化することによって「百姓や」の名前で出荷することができるようになります。

「第一段階の組合を立ち上げることが終わり、第二段階の法人化して『百姓や』を拡大していく段階になった」と今後の展望を語りました。

また、若柘地区では同生産組合だけでなく地域活性化・町おこしのため、農業体験などを行う団体があるなど「夢を語ること」をスローガンとしてさまざまな団体が活動しています。

ファイルNo.3

## 若柘地区 山の農場「百姓や」